

## 「宮沢賢治の作品を読もう」ワークシート1

# 宮沢賢治の作品を読もう

6年2組 ( )

からすの 北斗七星

を読みました。

※ この作品を選んだ理由を書きましょう。

からすというしの戦争のお話なのですが、この間やた、すみれ島の事や、ちらんの特こうたいの事とかつながって、印象に残りました。

※ 読んだ感想を書きましょう。

主人公のからすの大尉は、単か死するのかいやで、でも、明日出けきしけなければならぬ。その気持。少し想像しただけで、悲しくなりました。でも、いざ行く事になると敵は敵なので、単かわなければならぬ。それもまた悲くなりました。そして単かいが終わってから、敵の死骨骸をほうむりた。といつたからすの大尉は、本当に優しいからすでした。なおで感動しました。

※ 「雪わたり」や「やまなし」、その他今まで読んだ宮沢賢治の作品と比べてみましょう。

「雪わたり」や「やまなし」は、どちらかといふと、やさしい感じがして、からすの北斗七星は、少し悲し感じで、今までとは、ぶん雰囲気がちがうなあと思いました。

※ 宮沢賢治はどんな考え方を大切にしているのでしょうか。読者に受けとめてほしい思いを考えてみましょう。(題名のつけ方・文章中の表現・言葉の使い方)

「雪わたり」も、「からすの北斗七星」も、きつねとからすで、あまりいいイメージがある動き動きじゃないけれど、宮沢さんのお話を、どちらも、優しいキャラで、宮沢さんは、きっとどんな生物も、それでいい所があるし、人を思いやつたりするのは、とても大切というのを感じました。でも時には、注文の多い料理店のよう、ユーモアもあって、面白いような事を感じながら、暮らすのも良い凸というのも感じました。